

コミーの環境問題物語

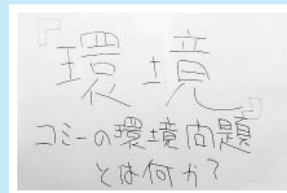
環境問題は 21 世紀最大の人類共通の問題。

コミーの環境の定義は

「自然、動植物、人及びそれらの相互関係を含む、コミーの活動を取りまくもの」と決めた。



休日出勤でコミーの「環境問題とは何か」の定義を議論する



日経トップリーダー 2010年5月号より

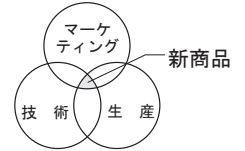
環境問題は「身近なモッタイナイから地球温暖化対策まで」全人類共通の課題です。

Environmental issues are a personal responsibility, including prevention of global warming. It is a common need for all of humanity.

KomyMirror は「身近なコンビニから航空機まで」安全・防犯・サービス・効率アップに役立っています。

Komy Mirrors contribute to safety, crime prevention, and good service from convenience stores to aircraft.

コミーの物語シリーズ



新商品・新マーケット

マーケットが先か、モノづくりが先か…

- 不思議5鏡態物語……………鏡で遊んでいるうちに世界初の3男1女が生まれ、さらに養子が来ました
- 「ラミ」開発物語……………シンプルなデザインとネーミングは、難産の末に生まれました
- 航空業界参入物語……………種を蒔き、芽が出て、実になるまでのナガイ話
- スーパーオーバル物語……………オーバルから機能的で美しい形「スーパーオーバル」へ
- 突っ張り棒物語……………ユーザーのおかげで生まれた新しい取付け方法の物語
- 登場人物物語……………コミーが創る物語に必要な登場人物とは

マーケティング

何ができるか、何者か？ 一言で言えば何か？

- 社名ロゴ変更物語……………komy から komyMirror へ
- 語呂合わせ物語……………代表電話 御社にこれ!! コミー 048-250-5311 ができるまで
- ブランド物語……………Komy のブランド力をあげるには？
- ユーロショップ出展記……………零細企業のコミーが外国の展示会に初めて出展
- はったり写真づくりの物語……………超一流人と零細企業主と一緒に写真を撮れた!! しかし…。
- 「日経新聞全面広告」物語……………念には念を入れた広告。早速朝読んでいた人を観察したらコミーのページを飛ばされてしまった。「何故？」

中小企業とモノづくり論

モノづくりとオリジナリティの楽しみ

- 「日本一の中小企業」との出会い……………おかげさまでミラーのメーカーになれました
- 新社屋建築物語……………工場と営業を一つに!! 畳の部屋やバルコニーをなぜつくったか
- 「モノづくり屋自慢」……………モノづくり屋はモノがいつまでも残るのでごまかせない。
そこから恥や誇りを身につけるには？ (日刊工業新聞連載)

生産システム

良い商品をムダなく安定供給できるシステムを目指して

- 「デルに学んだ物語」……………「デルの革命」の本から SCM を学び実行してみたら…
- 「掃除と分類」物語……………整理力は仕事力!! 日本的「掃除」と欧米的「分類」から SS を学ぶ
- 部品番地の物語……………部品を新人でもすぐに探せるためのカイゼン物語
- 「ISO9001 短期取得小企業物語」……………海外への販促のため、品質保証の国際規格 ISO9001 を取得することに…

社会問題

社会問題を解決すればビジネスにもつながる

- 「万引問題」物語……………「万引問題は捕まえた人に聞け!」
「役に立たないなら売るな。役に立っているなら大きく叫べ!!」
- 車いす人生の物語……………私たちは車いす生活をいかに知らないか?
- コミーの環境問題物語……………環境問題は会社も個人も最重要課題!!

小冊子が欲しい方はお気軽にご連絡下さい。またHPにも掲載されています。

何をつくっている 会社ですか？

昔、「松下電器は何をつくっている会社ですか？」と聞かれ、松下幸之助は答えたそうです。
「うちは人をつくっている会社です」と。
また、総理大臣の吉田茂は「総理、あなたはいつも何を食べていますか？」と聞かれ、
「人を喰っている」と答えたそうです。
最近、ある大学のインターンシップの発表懇談会で学長から
「コミーさんは何をつくっている会社ですか？」と聞かれ、偉大な二人を真似て答えました。
「物語を創っている会社です」 「????」

コミーの環境問題物語

環境問題は、規模で分けると「地球」、「国」、「企業」、「地域や家庭」、「個人」の問題になるように思う。個人から地球まで、様々な視点や考え方があり、環境や環境問題を、もっと深く考えて行動する体質を作ることが、コミーの永続的事業継続に必要なのではないかと感じている。なぜなら、環境問題は21世紀最大の人類共通問題であり、これを避けて、国、企業、個人は生きていけないからである。

この物語が、環境を考える機会になればと思う。

●日本の過去・現在、そして未来は？

物を大事に使っていた時代

戦中戦後を生き抜いた高齢者の方々の考え方を学ぶことが、環境を考える一つの切り口と思う。物が少なく、贅沢品がない時代をどうやって生き抜いたか、今の環境問題を鑑み、何を伝えたいか、身近な人に聞いてみた。

「昔のことはよく覚えていないけど、昔の方が物を大切に使っていたと思うよ。紙おむつとかなかったから、みんなおしめをつくり、何度も洗濯して使っていた。まあ手間だけどそれが当たり前だったよ。今は便利になったということかなあ？」

(2010年現在 94歳のおばあちゃんより)

現在は、確かに手間を省いて、利便性を追求して、物を大事に使っていないかもしれないと反省させられる。

企業がおこした過去の公害問題

古くは足尾鉍毒、その後、イタイイタイ病、水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく等があり、その地域に住む人々が公害で苦しめられていた。

国は、大気汚染防止、水質汚濁防止等の法律をつくり、規制を強化した。

企業文化に、社会的責任、特に「汚染の防止」の考え方が浸透していなかったのではないかな？

二酸化炭素排出量を減らすことが環境にいいこと？

今、新聞テレビでは、盛んに、環境関連の話題が出ている。

皆、温室効果ガスを少なくすることを奨励しているようである。詳しいことは、専門家に聞かないとわからないが、どうも、二酸化炭素発生を抑制することが、温暖化の防止に役立つようである。

だが、発展途上国及び中国をはじめとする新興国の経済成長は、この抑制対策や取り組みを上回るスピードで二酸化炭素を大量に発生させるのではないかなと思う。

身近な活動（エコバッグ、ごみの分別等）も重要であり、積み重ねなければならないが、急激な成長をしている国へ環境文化？（ヨーロッパ等が進んでいるらしい）を啓蒙し、省エネ、環境対応技術の共有も進めなくてはならないと考えている。

二酸化炭素発生は、化石燃料の使用等が主な要因であろうが、特に車社会の問題ではないか（？）と思う。

自動車メーカーは、環境対応と銘打って、必死にハイブリッドカーや電気自動車など開発・販売をしている。

輸送・移動法としての車の役割が重要と考えており、その中で、環境を考慮した開発をしているのだろう。

規制緩和が進む中、廃棄物（適切な処理と削減）、有害物質の除去



自動車メーカーはハイブリッドカーや電気自動車など開発しているが…。

などの、環境関連法、条例等は、ますます厳しくなり、企業は法律より先んじて、対応しなければならない。

国、企業、個人は、環境問題を考えて行動しなければ、生きて残れなくなってしまう流れになっている。

未来はどんな地球になっているのか？

本や雑誌などでは、気温が数℃上昇、氷河が溶け、海岸線が上昇、水没する島・国が出てくるとか、干ばつ・洪水が頻発するなど、暗い将来が予想されている。

地球温暖化が進んで、日本は亜熱帯になっているのだろうか。その原因が温室効果ガスなのか、太陽活動の変動なのか、地球活動の変動なのか、他の理

由なのか、解明されているのか全くわからない。ただ、子孫に恥ずかしくない考え・行動をしなければならないと思う。



将来は、干ばつや洪水が頻発してしまうのか。

国や企業の取り組み

■気候変動枠組条約締約国会議 (Conference of Parties / COP)

地球温暖化防止のために 1992 年の地球環境サミットで採択された気候変動枠組条約に参加する国により温室効果ガス排出防止策等を協議する会議。

■京都議定書 (COP3:97 年 12 月)

正式名称は、「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」。先進諸国の排出する二酸化炭素・メタン・亜酸化窒素など 6 種類の温室効果ガスの削減をめざす国際的取り決め。先進国全体で 2008 年から 2012 年までに 1990 年比 5 パーセントの削減を目標とし、各国ごとに法的拘束力のある数値が示された。先進国間で排出量の取引ができる。

■チャレンジ 25

地球温暖化防止のため、オフィスや家庭などにおいて実践できる CO2 削減に向けた具体的な行動を「6 つのチャレンジ」として提案。

■九都県市容器包装ダイエツト宣言

容器、包装を簡略化 (ダイエツト) し、ゴミを減らす努力をしていく、という宣言を九都県市が宣言、賛同した企業が実際に行動し活動している。

その他こんなことも…

●背広の袖を半袖にした「省エネルギー」。服装としてのバランスが悪く普及しなかった。(羽田 孜氏)

●小泉内閣時代では環境大臣を担当。夏場のエネルギー消費と二酸化炭素排出の抑制を図るクール・ビズ (ノーネクタイ・ノー上着) を提唱したことで知られる。(小池 百合子氏)

●日本の 2020 年までの温室効果ガスの削減目標 (中期目標) について「1990 年比 25%削減を目指す」と述べ、衆院選での同党の政権公約 (マニフェスト) 通りに実行する考えを表明したが…。(鳩山由紀夫氏)



クーラーなし、トイレなし、マイカーなし。
ないないづくしの創業当時。

●コミーの過去・現在、そして未来は？

30年前のコミーはないないづくし

創業の頃は、ガレージを間借りして、冷暖房なし、トイレなし、ないないづくし。その当時、エコなんて言葉はなかったのではないかと、でも、そんな仕事環境が、当たり前だった。

ISO14001 取得で期待したこと、学んだこと

なぜ、ISO14001 を取得しようと考えたか。それは、ISO14001 を道具としてうまく使い、商品開発や環境活動をして儲かっているリコーの新聞記事を見たからだ。

昔、東都工業の武仲さんから、「SS（整理・整頓）すれば、儲かるよ」と聞いたことがあり、未だにSSと格闘している。また、「最近、環境は儲かるよ」と、友人の白戸さんからも話を聞いた。

そこで、コミーでもISO14001 という道具で、環境活動を通して、社員が環境問題に強い関心をもつようになり、また、うまく使うことで、短期ではなく、長期に渡って儲かるシステムを構築し、社会の役に立つと考えたのである。



ISO14001

有能人への依頼

ISO と上田先生（日本生産性本部）との出会いは、98年頃「FF ミラー AIR」のISO9001 取得計画から始まる。

航空機用ミラー品質管理システムとして、お客様から、取得を必須条件とされて、右も左もわからない状態で、上田先生にご指導を受けながら、取得ができた。

ISO14001 もコミーの実情もよく知ってらっしゃる、上田先生にご指導を受けながら、取得計画を作成した。

こんなに面倒な法律があるのか！

取得にあたって、ルール作り、文章作成等の煩雑なものが多いと感じたが、最も煩雑だったのは、法律・条例の把握と届出である。工場では、ほとんどの作業が組み立てである。加工道具は少ないし、小規模なものであるが、よくよく調べてみると、「帯のこ盤」、「丸のこ盤」が埼玉県生活保全条例の指定騒音施設に該当しており、急遽、届出を提出した。

その他、様々な法律・条例があり、川口市環境部様には、内容を把握するために、数回にわたり打ち合わせをさせて頂いて感謝している。

コミーは愚直に法律を遵守しているが、こんなに細かいところまで、法律があることを改めて認識させられた。

近所の先輩企業からのアドバイス

ISO14001 を先に取得していた近所の先輩企業である、小原歯車工業様や、川口技研様にも、取得及び運用にあたりアドバイスを頂いた。「ISO(14001,9001)統合」、「文章の電子化」、「ホームページでの環境への取り組み」、「紙・ごみ・電気の削減目標は数年継続すると、削減させることが難しくなる」、「太陽光発電は、宣伝にはなっているかもしれないが、設備費回収にはかなりの時間がかかる」等、コミーが

見習い、取り入れていくべきことを教えて頂き感謝している。

LCA とは何か？

環境問題の中で、頻繁に耳にし、気になる単語があった。LCA(Life Cycle Assessment) である。

意味は、「製品の一生、すなわち資源採取から製品の製造、流通、使用、リサイクル、廃棄までの全過程での環境負荷を定量的客観的に評価する手法のこと」、らしいが、難しいので、コミーでは、「商品を作るまで」「使われている時」「捨てる時」の環境負荷を減らすこととした。

「商品をつくるまで」＝「製造」

「使われている時」＝「使用」

「捨てる時」＝「廃棄」

と分けて、各工程で、環境への負荷を低減するために、「設計」「製造」「営業」に、「軽量シンプルな設計」「不良を作らない製造」「環境負荷を低減する商品であることをアピールする」という、課題に取り組むようにしている。

Less is More で環境問題にアプローチした商品ができました

世の中では、一時、塩化ビニールがダイオキシンの原因物資であると毛嫌いされる流れがあった。商品の部品中に、ゴムフチと呼ばれているミラー一部と裏面取り付け金具部を一体化する部品に、塩化ビニールを使用していた。一部商品群では代替品で対応できたが、強度上、どうしても代替できていないものがあつた。

塩ビは耐久性・コスト性に優れた化学物資であるので、なくすのは難しいと考えていた。

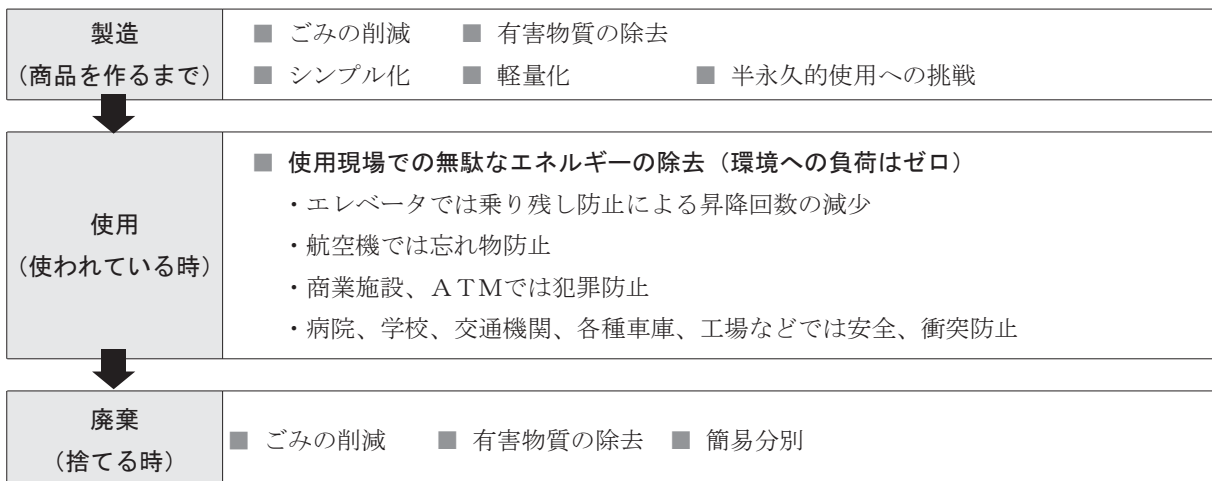
しかし、「Less is More」：余分なモノを排除した less は「より豊か」more を生み出す（建築家ミースの言葉）をヒントに、新商品は、ゴムフチをなくすこととした。開発には、ミラーと裏面部との接着結合性を維持、ミラーのゆがみ防止など課題があつたが、結果的に、従来品重量の約半分で新製品を開発することができた。



スーパーオーバルは従来商品オーバルの裏板とゴムの枠をなくし、部品点数も減らして重量が約半分になった。(スーパーオーバル物語を参照)

LCA とは

製品の一生、すなわち資源採取から製品の製造、流通、使用、リサイクル、廃棄までの全過程での環境負荷を定量的客観的に評価する手法のことです



協力会社を変更せざるを得なかったこと

近年、お客様からの環境対応要求は、厳しくなる一方である。

グリーン調達、RoHS 指令等、特に規模の大きい会社は、次々と新たな要求をしてくる。

当然、コミーは要求に対応した、部品・製造工程をそろえて、製造しなければならない。

コミーには、針金細工部品を使用している商品がある。供給している A 社は、昔からの取引であるが、有害物質調査を提出してくれない。聞いてみると、メッキ工程の調査ができないとのことであった。

B 社に試作を頼んだら、有害物資調査付で試作品ができあがった。

A 社から対応できる B 社へ変更するか考えた。世の中の流れは、有害物質除去であり、除去できないにしても把握していることから、対策を実施できるのである。

ダーウィンの言葉らしいが、「この世に生き残る生き物は、変化に対応できる生き物だ」が浮かんだ。

針金細工部品の一部を A 社から B 社へ切り替えることにした。

●コミーが未来のためにやることは？

コミーでは、2010 年 1 月より、毎月 1 回 30 分、社員全員で環境を考える時間を設けた。理由は、環境問題に強い関心を持ち、行動するようにしたかったからである。

1 月は、ISO14001 の教育、マネジメントレビュー結果報告であったが、コミー流では、まず言葉の定義を議論した。

次回以降は、コミーにとって環境とは？環境問題とは？を考えることにし、各社員に意見を書いてもらった。

内容は様々であったが、最終的には、コミーでの環境定義は、「自然、動植物、人及びそれらの相互関係を含む、コミーの活動をとりまくもの」となった。

また社員から

- ・エコ活動というのは、もれなく「面倒臭いという気持ち」がついてくる。
- ・小さな積み重ねが結果的には大きな力になると思う。
- ・紙の削減やエアコンの温度設定
- ・オフィス用品などはグリーン商品を購入

など様々な意見が上がった。

別の月では、コミー商品そのものが、環境負荷軽減に役立つのをアピールするための方法を検討した。コミー商品には、エレベータの挟まれ、乗り残し防止の目的で設置するミラーがある。

その商品のユーザー様コメントで、「省エネに役立つ」とおっしゃってくれた方がいた。世の中の省エネ評価は、二酸化炭素排出量換算が一般的に認められているようである。しかしその言葉を、排出量換算に表現するのは極めて難しい。本当にエレベータ昇降回数が減ったのか？ それでどれだけ二酸化炭素排出量が減ったのか？ 乗り残しを防いだことで、効率等があがったのか？ 結局は、データ（二酸化炭素排出量、昇降回数等）で表現するより、ユーザー様の生の声をそのまま伝えることが、他のお客様に伝わりやすくなるかの判断し、データ等で環境負荷を減らしているのを表現することをあきらめた。

その他テーマは

- ・第三者機関のエコマーク取得できないか？
 - ・もっと不良を減らせられないか？
 - ・ホームページで社内の環境活動を掲載できないか？
- 等であった。

今後もテーマを身近なものから、根本的なものまで取り扱って、ほんの少しずつでも、テーマに結論を出して行きたいと考えている。

今後の夢（見通し）

ホンダのマスクー法※対応等は、環境に対する世の中の流れに、すばやく変化でき対応できる成功例の一つである。

コミーは、組み立てが主工程なので、製造業の中では環境負荷が少ないと考えている。その中で世に役立つために、環境問題でどのような形で貢献できるか、現状では明確化できていないが、イニシアティ

ブをとれる企業を目指している。

マスクー法：米国で1970年12月に改定された大気汚染防止のための法律の通称。自動車の排気ガス規制法として当時世界一厳しいといわれ、クリアするのは不可能とまで言われたものであった。そのため、自動車メーカー側からの反発も激しく、実施期限を待たずして74年に廃案となってしまった。

環境問題への取り組みの推移

（コミー・マネジメントレビュー総合コメントより）

2008年

IS014001を始めて1年。これをすればムダがなくなり、会社は儲かると友人の白戸さんから聞いた。しかし、実感はなかった。理由を考えた。コミーの商品そのものが、安全・防犯・効率アップ用であり、環境負荷を少なくしている。しかも超薄型、超軽量で10～30年の長寿。車はLCAが悪いと思う。コミーは従業員30人以上であるが、マイカー通勤ゼロ。社長、専務共にマイカーなし生活。LCAから考えて、コミーが社会に対し、すべき仕事をもっと多面的・長期的・根本的に考えて行くこと。環境方針は変更ないが、これを皆に語る時間を定期的につくること。

■結果：研修にて内部監査員4名増員した。フチなし商品開発した。環境関連記事の掲示した。

2009年

2008年は、環境について熱い議論がされなかったのではないかと。生物や会社や商品が生きるには「環境、DNA、時間」の三大要因がある。この視点からコミー全員が環境問題について語る時間をもっと増やしていくこと。そして「コミーと環境問題」物語（仮題）の小冊子を1年以内につくること。

部署別では

【製造】… エア関係の不良品を減らすこと

【設計】… シンプルで軽量の新品を出したり、切り替えを進めていくこと

【マーケティング】… 気くばりミラー商品そのものが、環境負荷を軽減することをアピールすること

■結果：社員に環境を考える時間を取った。この冊子が制作された。会社ホームページに「コミーの環境への取り組み」を追加した。ゴムフチなしの商品への切り替えを少しずつであるが進めることができた。

2010年

FFミラーエアーは、初出荷から現在まで10万台突破し、クレームゼロで、長寿命、超軽量、商品としても役立つことが、実証できた。これは、使用環境に適応した、物性機能があったからと思う。物語を創っている会社コミーが、人類の最重要である環境問題と取り組みを冊子「環境問題物語」としてはじめて作った。これからは企業としても、生物としても「生き残る」ことを見出す問題解決の糸口の決め手になればと思う。

身近なモットイナイから地球温暖化対策まで……

他人ごとではない環境問題。社員が考えていること

「ごみを減らそう」とか「リサイクルしよう」と言われていますが、私は意識的に行動していないことに気づきました。私は大きなゴミ袋を持って収集場所に行くのが恥ずかしいので、ゴミ袋は小さくなるように心がけています。また、捨てるのが、もったいなくて捨てられずにいるモノが家にはあります。フリーマーケットをやります。環境問題で、無意識な行動が、結果的に地球にやさしいことになっていけばいいなと思います。(Y. T 女)

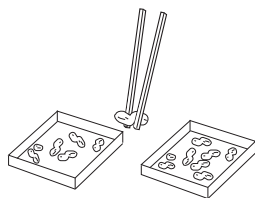


恥ずかしいからゴミを小さくして出しています

今年の猛暑、長時間にわたりクーラーを使用してしまった。自分の身を守るために必要最低限のクーラーは使用するとしても、真夏に長袖を用意して「冷え性対策」をする必要がある場所や乗り物は、世の中から減らしていくようにできないだろうか。(M. G 男)

自分の世代で地球が終わるわけではないし、未来人のことを考えると出来るだけキレイな地球を残してあげたい。まずは出来ることから、洗剤は生分解率が高いといわれているもの（粉石鹼など）を使っています。(M. C 女)

私のエコ生活は、マイカー及びエアコンなし（歩いたり、汗をかくので健康にもよし）。バスタオルなし（手ぬぐいだけで十分拭けます）。スポーツといえばゴルフなど一切せず、世界一のエコスポーツ「箸りんぴっく」のみ。(S. K 男)



世界一のエコスポーツ「箸りんぴっく」

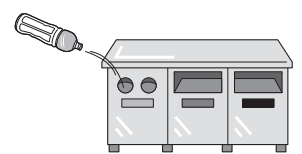
環境を良くしようと、政府は言っていますが、割引で道路事情は渋滞を招いています。とても、環境にも良いとは思いません。(E. M 女)

今年の夏は猛暑日や熱帯夜が続いたりして、地球が温暖化していることが原因なのかな…と感じました。温暖化を進めるのも食い止めるのも、私たち一人ひとりの心がけ一つだと思っているので、誰もいない部屋の電気のスイッチは切るとか、環境に配慮した製品の購入とか、マイバッグを持つとかして自分にも環境にも優しくしていきたいと思っています。(A. K 女)

住んでいる周囲を見回すと、ある日突然に森や雑木林が伐採され、開発行為が行われている。ああ、また緑がなくなっちゃったと嘆いて終わりにするのではなく、その開発行為が適法な物か、役所はなぜ開発許可を下ろしたのか、何が造られるのか、造られたらどんな影響があるのかを調べるようにしています。一人では力がないので町内会より問題意識のある有志をつのり監視している。(T. T 男)

紙資源の削減をしたい。日常生活では、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、キッチンペーパーなど。オフィスでは、プリンタ出力、FAX、PCでできることへ移行できたらいいなと思う。購買、交通費清算、勤務表など、20年前からシステムがありますよ。(Y. N 女)

自宅から出るペットボトル、食品トレイ、空き缶は必ずスーパーのリサイクルBOXに戻すようにしている。小さなことでも、継続すれば大きな力になるかと。(T. W 男)



ペットボトルや食品トレイなどはリサイクル

環境問題というと、まず思い浮かぶのは温暖化についてです。近年の異常気象を思うと、以前より真剣にCO2の削減について考えなければと思います。

具体的に何かしないといけないな、とは思いますが、自分で実際にやっていることは「エコバッグの使用」と「エアコンの設定温度をやや高めに」くらいです。それらが本当に効果があるのかは正直疑問ですが、自分の為にやっているという面もあります。やるなら確実に効果のある事を、気負わずにやりたいと思います。(M. S 女)

全世界規模での、環境税の導入がいいと思います。(Y. I 男)

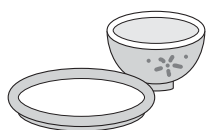
身近で出来ることは可能な限り実行すること。買物袋の持参、ビニール包装紙等はただ廃棄せず再利用後廃棄、必要不可欠で20年以上使用した家電は省エネ効果の高いものに買い替えています。「節紙、節約、節水、節電」というかつてうたわれた名言を反映しています。(K. M 男)

最近会社で気になっているのは、産廃業者に出している、2階のパレットの量です。(M. H 女)

地球環境は全ての人がゴミの減少等を意識して生活しないと意味がないと思う。

便利になりすぎている世の中なので、昭和初期位の生活に戻して不便な生活を普通と思えるようにしたらよいと思う。極端だけど、ペットボトル自体を作らなくするとか…。コンビニは11時までしか営業しないなど…と考えます。(K. O 女)

食器は、汚れを拭きとってから、洗剤を使わずに、
アクリル毛糸のたわしで洗うように心掛けてます。水の大切さについて考えていきたいと思
います。(N. W 女)



食器は、洗剤を使わずに洗っています

日頃、自動車や電車を使っているのに、休みの日は自転車や歩きでの移動を心がけている。また、日本エコウォーク環境貢献推進機構が行っているエコウォークの会員になって、自然環境を考えるきっかけになっている。こんなことをやっている一方で、便利なモノに頼り過ぎている面も。「自分さえよければ」という考えを改め、この夏は自分たちができるエアコンの節電やペットボトル削減などを始めたところです。(M. N 女)

次世代の子供達が住む「地球」とは、どんな地球なのだろうか？(S. B 女)

世界各国が軍事政策に費やしたお金を、ゴミ処理や大気汚染などの解決・改善のための研究に使っていれば、今よりはまともな地球だったと思います。

とは言っても仕方がないので、まずは自分の身の回りで取りかかれそうなことからやっ
ていこうと思います。(Y. I 女)

飲食店に行くとき、ドギーバックを持って、食べ残しを持ち帰っています。(M. O 女)

「地球に優しい」等と考えるより、まずは自分の住む地域にある環境を汚さないようにしよう。空気を汚さない為にゴミを減らしたり、川を汚さない為に汚い水を流さないようにしたり…。「自分たちが住む町をキレイにしようよ」という思いで生活していく事が必要だと思
います。(H. Y 男)

何故？今と考えると、人口が増え、資源の消費量、廃棄物の量が増え続けていることが、原因なのかな
って思う。「自分にとって本当に必要な物を考え無駄な物を買わない使わない」そんな試みも環境汚染をとめる1つなのかな
と思う。(T. T 男)

一人ひとりが環境に対して、危機を持つべきだと思います。(C. W 女)

先進国の人「自分たちの子孫にこの地球を残したい」なんて言っているが、まだ発展途中の国々の人は日々食べて行く事、良い暮らしがしたいって思っていると思う。環境についての温度差がかなり有ると思います。どうしたら縮められるのだろう…と思っています。(M. T 女)

「環境問題」「温暖化」などニュースで聞いていると、人ごとみたいに感じる。しかし実際は、自分の生きていく周りの出来事で、自分達が快適に暮らしているかという身近な問題。とりあえず身の回りのSSやゴミ減らしなど出来ることから取り組みたい。

(T. Y 男)

環境問題について思っていることは、もっと太陽のエネルギーを有効に使えたらいいなと思っています。すべての家の屋根や建物の上にソーラーパネルがあったら、どれだけの電気が作れるのか？とよく思うことがあります。あとは一人ひとりがもっと環境について真剣に考える。自分だけはいいやと思わないことが大切だと思います。(M. S 女)

美観（環境）を保つためシンガポールのようにゴミのポイ捨てに罰金を科し、かつ徴収した罰金を風力や光発電などの開発、設備資金にしたら良いと思う。(H. T 男)

水質汚染を考え、合成界面活性剤を含んだ洗剤・シャンプー類・化粧品をなるべく使わないようにして、せっけんを使っています。せっけんは水に流れると1日で分解されるのに対し、合成界面活性剤は100日たっても分解されず残っているそうです。その間、水に住む生き物も危険にさらします。(それを食べる人間は…?!)(Y. Y 女)



環境に優しい洗剤を選んでいきます

環境問題は非常に多面的かつ複雑であり、たとえば環境に優しい製品を開発する時に環境に負荷がかかってしまったり、ある国でCO2排出量を減らすと他の国で排出量が増えたりしてしまうことがある。このため、全人類が一体となって問題解決に取り組む必要があると思う(それが難しいのだが)。人間は、ゆっくりと忍び寄る危機に対して非常に鈍感な生き物であると思う。環境問題に対処するには、危機を予測し実感する力、長期的な計画力、他者を思いやる心、忍耐力など様々な力が必要とされる。困難だがチャレンジしがいのある問題である。(T. S 男)

自宅の照明は省エネタイプのものにしたり、一般に言われている日常的なことは行っているつもりです。環境に悪いことはしなければいいのが一番ですが、やはり無理なので、今まで以上に個々が意識し、日常でできることを必ず実行することだと思います。(S. I 女)



照明は省エネタイプのものを

1日の個人消費電力（家庭のみ）を20kw/h以下にする。(T. N 男)

良かれと思っていたAIRパレットが、1度しか利用されず、ゴミの排出量として多すぎる。3回ぐらい使え、ゴミを3分の1に減らせないか。(Y. K 男)

あとがき

どうにか、コミーの環境問題物語を制作することができました。環境問題は、広範囲で漠然としていますが、身近なことでもあると分かりました。稚拙な文章で、不十分な点が多々ありますが、ご一読いただいて、気づいたこと、ご指導等ありましたら、気軽にご連絡いただければ幸いです。

池上彰・手嶋龍一 著

「武器なき“環境”戦争」の本を読んで



池上彰・手嶋龍一 著
(角川 SSC 新書)

<本の内容>

21世紀の世界の覇権争いは「環境」を舞台に繰り広げられる。戦前の軍艦、戦後の核兵器に次ぎ、CO₂排出量がいま、人類の最重要課題となった。国際政治の主役に躍り出たCO₂を外交の“武器”に、「環境」という戦場で、どう戦っていけばいいのか？日本の進むべき道を提示する対論。環境から、世界の覇権、メディアリテラシーまで。“世界を識る”気鋭のジャーナリスト二人が、存分に語り尽くす。

<本の感想>


- 環境を中心としているが、近現代史の反省を取り入れながら、環境の時代に、日本が先駆者になるには、情報を取捨選択する能力が求められていると思う。(Y.I 男)
- 21世紀は「地球環境」が国際的な政治経済における中心課題となる。日本は外交面、技術面において、ゆるぎない戦略のもとに、世界をリードする国にならなければならない。(T.S 男)
- 環境問題を考える時に、メディアからの情報を慎重に取捨選択する「読み解く力」「伝えられる力」が重要。メディアの言いなり、センセーショナルな言い回しに左右されるのではなく、本質を見極め、世の中の動きに敏感になっていく必要がある。(T.Y 男)

死角に気づき ——

KomyMirror®

コミー株式会社
mail@komy.co.jp

コミー

検索 

www.komy.co.jp

〒332-0034

埼玉県川口市並木 1-5-13

TEL.048-250-5311

FAX.048-250-5318

K101210